

もりした
モリ下遺跡

所在地 新城市八束穂
(北緯34度55分33秒 東経137度32分4秒)

調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線

調査期間 平成21年6月～平成21年11月

調査面積 3,500㎡

担当者 松田 訓・亀甲真史



調査地点(1/2.5万「三河大野」)

調査の経過 発掘調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線の建設に伴う事前調査として、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行った。

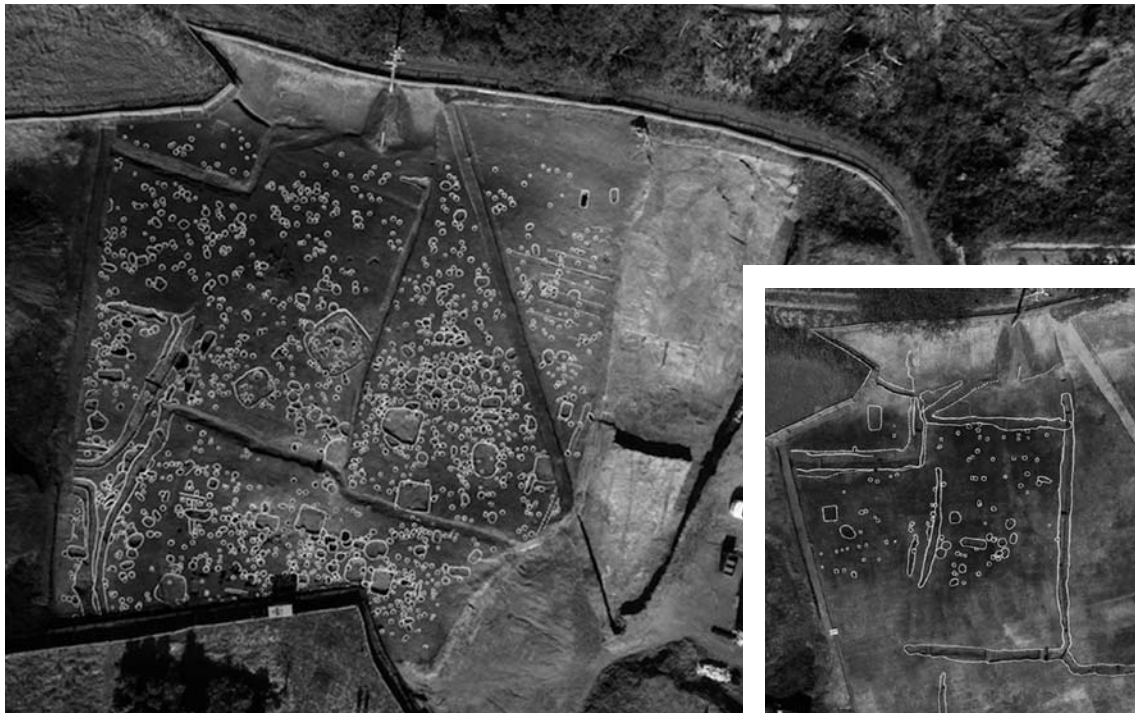
立地と環境 本遺跡は新城市のほぼ中央部に位置し、地形的には、雁峰山から派生する尾根筋の南西側緩斜面に立地している。遺構検出面での標高は約80mである。

調査の概要 検出した遺構は、弥生～古墳時代・鎌倉～戦国時代の2時期である。

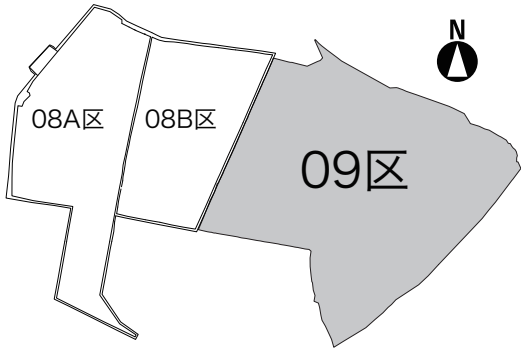
弥生～古墳時代 前年度08A・08B区と同様に、東隣の今年度09区でも竪穴建物跡が検出された。密度は前年度調査区より薄く、この時期のものと判断できるものは2棟である。このうち6548SIは5.1m×5.1mで、本遺跡の中では最も規模の大きな建物跡であり、土器片がまとまって出土している。その西隣に位置する6792SIは、6548SIと主軸を平行にとり、3.4m×2.8mを測る。6792SIからは、欠山式の高杯等が出土している。また調査区東部では、掘立柱建物の柱列を確認した。

鎌倉～戦国時代 北東から南西に延びる溝状遺構5077SD、土坑等を確認した。全体的に遺物は少ないが、調査区南端の5113SKから土器内耳鍋片が確認された。

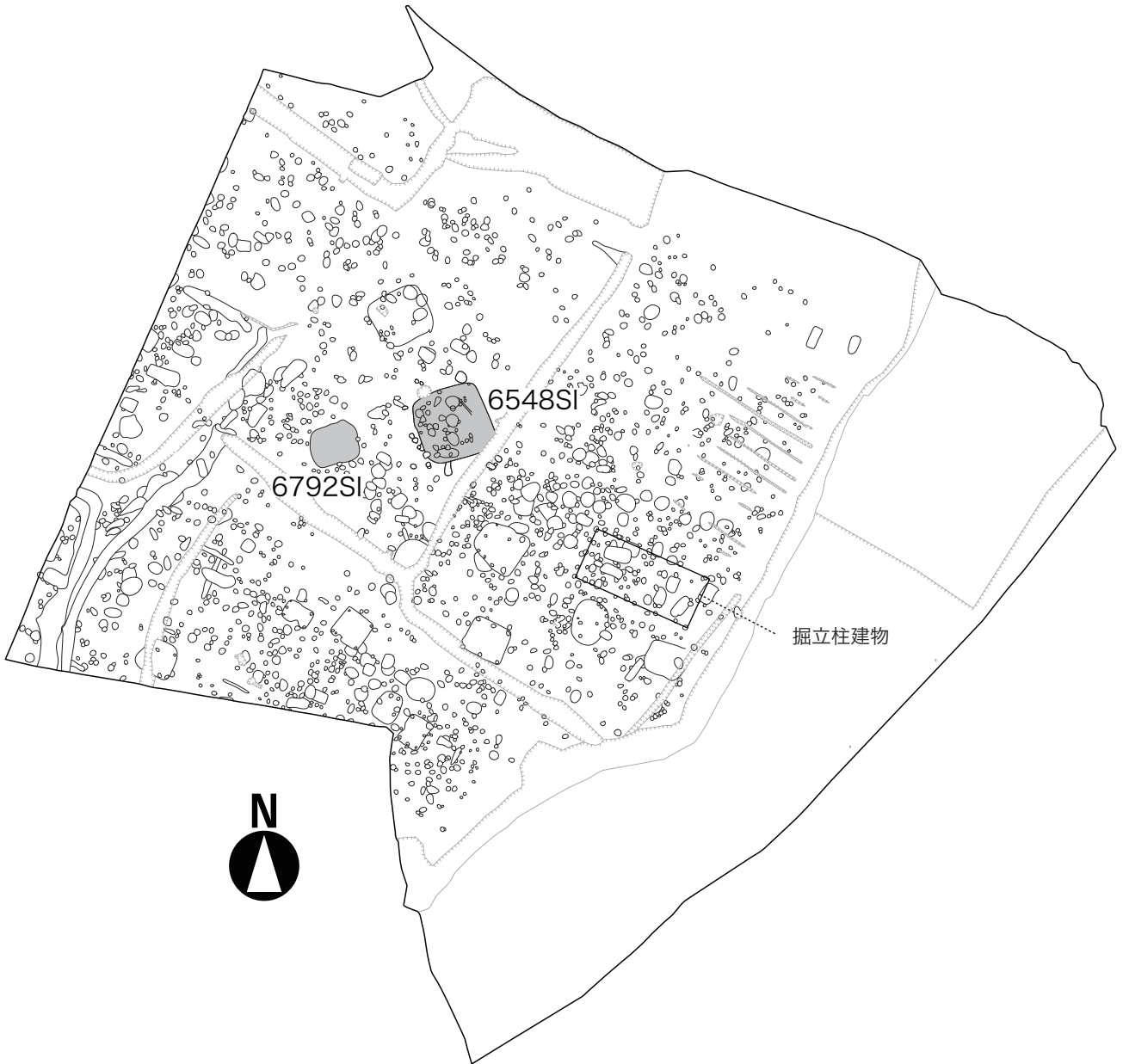
(亀甲 真史)



調査区全景(下面遺構、右下は上面遺構の一部：上空から)



08・09調査区配置 (1:2000)



09区遺構全体図 (1:500)